

公益社団法人いわき青年会議所 2026年度 総務広報委員会 アクションプラン			
委員会名：総務広報委員会			
担当副理事長：溝井 清弥	委員長：門馬 円香	副委員長：柴田 真琴・丹野 靖之	ver4
(委員会設置背景)			
①総務			
現在、いわきJCは急激な若返りの時期を迎え、未来に希望を見出すチャンスの時期を迎えています。急速な若返りにより全体的な組織力の低下が懸念されるところであり、われわれの運動を展開する力も弱まってしまう。			
しかしながら、このチャンスの時期を前向きに捉え、ひと・まちづくりの運動を未来に繋いでいくためには、次代を担う会員一人ひとりが団結した組織を作り維持しなければなりません。そのため会議や各委員会が円滑に運営に臨める環境を提供するためとして、当委員会を設置する必要があります。			
②広報			
現代の社会情勢はSNS社会と言われている世の中、いわきJCは地域社会の発展と様々な成長の機会を提供する団体として活動していますが、いわき市民からすると日々どのような活動をしている団体なのか、一部の方しか伝わっていないのが現状です。いわき市民全体に周知させるためにはSNSや広告等を効果的に発信する必要があります。そのためにも会員一人ひとりがJCの理念やいわきJCの事業や大会関連事業に積極的に参加していただき、様々な事業を行う意図を理解し他者に伝えられる人財にならなければなりません。			
(委員会運営方針)			
①事業や各会議体を円滑に運営できるように各委員会や事務局と連携を図り、誰もが参加しやすい環境を整えます。			
②いわきJCが今後、様々な運動を展開していくために、ご来賓や各関係諸団体との連携が互いに取り合えるような関係を構築していきます。			
③いわきJCが取り組む運動や委員会活動、または大会関連事業を全メンバーで広報推進することで、メンバー一人ひとりがJC活動に対する理解と共感を得られるような組織形態を構築し、組織のブランド力を高めていきます。			
(事業内容)			
■事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度新年会計画		事業区分：他1	
1) 実施に至る背景：			
JC運動を行うためには、様々な関係諸団体と関係を深め、連携をとることで、より良いものとなり、かつ円滑に行うことができます。これからの組織運営をより強固にするため関係諸団体と関係を深める必要があります。			
2) 目的：			
対外：我々の考えを示し、関係諸団体との交流を図ることで、互いに協力できる組織となることを目的とします。			
対内：本年度の方針を理解し、協力してこれからの運動に積極的に参加する機運を高める事業とすることを目的とします。			
3) 事業内容：			
いわきJCの新体制をお披露目し、関係諸団体に理解と協力を得られる新年会の運営を行います。			
4) 実施期間： 2026年1月31日(土)			
5) 予算：350,000円			
6) 目標値：			
対内アンケートより「本年度のJC運動・活動に対して率先して行動できるようになった」：80%以上			
対外ヒアリングより「組織体制や運動方針が理解でき協力できるようになった」：ヒアリング回答者の80%以上			
7) 得られる効果：			
対内：本年度のJC活動や運動の機運を高めていくことで、これからの運動に向けての発信力と活動意欲も高まっていきます。			
対外：本年度の組織体制や運動方針を理解していただくことで、引き続きご協力いただける関係となり、JC運動をより円滑に行うことができます。			
8) 実施する際のパートナー： いわき青年会議所OB会、旧5JCOB会、福島ブロック協議会、関係諸団体			
■事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度4月例会計画		事業区分：他2	
1) 実施に至る背景：			
これまで事業の開催や様々なイベントを発信してきましたが、何を目的とした取り組みなのか詳細まで分からない内容でした。広報内容の作成から更新する担当者が少なく負担も大きい現状があり、何より事業の実施目的や思いを発信するメンバーが限られていました。いわきJCの全メンバーだけが事業を行う目的を理解するのではなく、いわき市民に取り組んでいる内容を理解してもらうためにも、担当者を一人制ではなく現役メンバー全員が広報スキルを身に付け、地域社会へ向けてわれわれの運動を伝えることができるようにする必要があります。そこで、広報スキルを実践的に学び、メンバー一人ひとりが“自ら発信できる力”を身につける必要があります。			
2) 目的：			
情報発信の重要性を理解し、また、広報スキルを向上することで、積極性をもって広報を行う人財となることを目的とします。			
3) 事業内容：			
本年度は、各委員会に投稿記事を作成していただくため、メンバーそれぞれが、広報スキルを身に付ける必要があります。そこで、情報発信について詳しい専門家から、情報発信文章術、写真の撮り方やデザイン講座について講演し、情報発信を活かしていくポイントなども講演していただきます。学んだスキルをJC活動だけでなく、社業の広報活動にも活かすことができます。			
4) 実施期間： 2026年4月13日(月)			
5) 予算：50,000円			
6) 目標値：			
対内アンケートより「広報スキルを向上することができ、今後の活動に活かすことができる」の回答：80%以上			
7) 得られる効果：			
「伝える力」が身につくことで、自分の言葉でJCの魅力や事業の意義を説明できる人財が増えます。			
社業においても、販促・採用・顧客コミュニケーションなどに応用でき、ビジネススキルの向上にもつながります。			
8) 実施する際のパートナー： 外部講師（情報発信について詳しい専門家）			

■事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度9月例会計画	事業区分：他2
1) 実施に至る背景： いわき市は、豊かな自然と広域性、多様な地域文化を有するまちである一方、少子高齢化や人口流出、地域経済の停滞といった課題に直面しています。地域資源や地元企業の魅力が十分に伝わっていない現状があり、地域の担い手となる若者が都市部に流出し、地元企業や地域社会の後継者不足が深刻化しています。いわきJCは、これまで多くの先輩方が地域の発展を願い活動を積み重ねてきた組織です。その想いを受け継ぎ、次代へとつなぐためには、地域の課題を自分ごととして捉え、主体的に行動できる環境をつくることが求められています。「誰もが笑顔になれる故郷」を実現するため、いわきJCが率先して地域課題の解決に向けた運動を展開することが必要とされています。	
2) 目的： 地域の課題に真摯に向き合い、会員一人ひとりが「地域を支えるリーダー」としての使命感を再認識し、行動力・発信力・共創力を高めます。	
3) 事業内容： 地域課題に向き合っている団体等を講師にお呼びし、地域課題に関する講演をいただきます。講演の後、グループワークにて、いわきの社会課題を自分ごととして捉えられるよう、各グループで「地域に対して今、自分たちにできること」を議論していただきます。グループ発表を通じて、今後の運動や事業アイデアに発展させるきっかけをつくります。	
4) 実施期間： 2026年9月10日(木)	
5) 予算：50,000円	
6) 目標値： 対内アンケートより、 「事業を通して地域課題を理解し、会員一人ひとりが自らの立場での関わり方を考えることができた」の回答80%以上	
7) 得られる効果： 地域課題についての深い理解を持った人財を育成することにより、今後まちづくりや、未来を担う次世代の若者育成のためのよりよいを事業を構築することが出来ます。	
8) 実施する際のパートナー： 地域課題に向き合っている団体等	
■事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度卒業式開催計画	事業区分：他 1
1) 実施に至る背景： 卒業に至るまで様々な困難を乗り越え、いわきJCの発展に多大なる貢献をされてきた卒業生に長年の感謝の気持ちを表し、新たな旅立ちに向けて盛大に送り出す必要があります。	
2) 目的： 長年の感謝の気持ちを込めて、盛大に送り出すことを目的とします。	
3) 事業内容： 卒業式及び感謝ナイトの運営	
4) 実施期間： 2026年12月6日(日)	
5) 予算：600,000円	
6) 目標値： 出席した卒業生の満足度100%	
7) 得られる効果：卒業生からの熱いJCに対する思いを受け継ぎ、今後のJC活動、運動に対する熱意を高める。	
8) 実施する際のパートナー： いわき青年会議所OB会 旧5JCOB会	
■事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度広報計画	事業区分：なし
1) 実施に至る背景： われわれはこれまで、地域社会に対して、まちづくりやひとづくりなどの事業を行ってきましたが、まだ多くの市民のみなさまに、いわきJCとしての活動の魅力や意義が十分に伝わりきっていない現状があります。そこで、さらに積極的に、「いわきJCとは、どのような団体で、どんな活動をし、どういった地域益をもたらしているのか」ということをSNSや報道機関等を通じて活発に展開していく必要があります。	
2) 目的： いわきJCが地域社会からさらなる信頼を得るために、いわきJC各委員会のスタッフメンバーが自ら発信するスキルを身に付け、事業で伝えたい内容を分かりやすく発信できるようにし、われわれへの認知度に寄与することを目的とします。	
3) 事業内容： 本年度のいわきJCの広報は、各委員会で月ごとに投稿記事作成を担当していただき、本委員会は各員会に作成いただいた投稿記事内容を精査し、各サービスに投稿します。投稿記事作成の担当月は、基本的にはその月の担当例会に合わせて担当していただきます。記事を作成するメンバーは、各委員会のスタッフメンバーが担当して作成してもらいます。記事作成の際は、マスコットキャラクター「かもりん」を記事内に掲載いただき、記事を作成いただきます。本委員会は、各委員会の両幹事より連携いただいた記事の精査、最終投稿作業を行います。	
4) 実施期間： 2026年1月～2026年12月	
5) 予算：0円	
6) 目標値： ・公式ホームページ：事業活動ごとに記事更新 ・SNSの投稿数：週1回以上 ・SNSの新規登録者数増加：2025年10月11日現在と比べてそれぞれの媒体約300人増 X 2,000人、Instagram 1,300人、Facebook 2,100人 (2025年10月11日現在 フォロワー数X(旧Twitter) 1,777人 Instagram964人 Facebook 1,820人) ・SNSの会員登録数：100%	
7) 得られる効果： 地域社会に対してわれわれの活動内容や目的が広く認知され、地域課題の解決に向けた取り組みが周知されることで、われわれの活動への理解と共感が深まり、地域社会との信頼関係が向上し、今後の運動展開への力となります。	
8) 実施する際のパートナー： 各種報道機関（福島民友、福島民報、いわき民報、テレビ局、ラジオ局）	

公益社団法人いわき青年会議所 2026年度 ひとづくり委員会 アクションプラン			
委員会名：ひとづくり委員会			
担当副理事長：小野卓也	委員長：木村俊太郎	副委員長：松崎和磨 吉田大将	ver6.0
（委員会設置背景） 地域の未来を創り上げていくのは、その地に暮らす子どもたちです。近年、社会情勢の変化はめまぐるしく、子どもたちには変化に対応できる柔軟な思考力が求められています。そして、その柔軟性を育むためには、多種多様な体験や価値観に触れるといった新たな刺激が必要不可欠です。現代社会は多くの情報や刺激にあふれ、子どもたちが自分の興味のあるものを見つけることは容易になっていますが、これまで知らなかった新たな興味を芽生えさせる機会は減少しているとも言えます。そうした新たな「きっかけ」を創出し、子どもたちの可能性を広げていく運動こそが、私たちJCの本質であると捉えています。本委員会では、より多くの子どもたちを巻き込む運動を展開し、子どもたち一人ひとりが自分らしく成長できる機会を提供することで、将来、地域に誇れる人財へと導いてまいります。また、「子ども」への働きかけだけでなく、日頃から多くの時間を共に過ごす保護者とのつながりも非常に重要です。子どもの健やかな成長を考えるからこそ、保護者も巻き込みながら運動を展開し、地域全体で子どもを育む環境づくりを推進してまいります。 （委員会運営方針） ①子どもたちの思考の柔軟性を養う体験の創出 ②教育参画意識を醸成する機会の創出			
（事業内容）			
■5月例会並びに小学生高学年向け事業			（事業）公2
1）実施に至る背景： 目まぐるしい社会環境の変化の中で、子どもたちには柔軟な思考力や発想力が求められていますが、教育の現場のみでは能力開発の機会が少ないのが現状です。また、そのような能力を養う為には受動的ではなく主体的に学ぶ姿勢が必要があり、自ら進んで学びたいと思える機会の提供が必要と考えます。 2）目的： 対外：子供たちが将来的に幅広く活躍する為に、柔軟な思考力や発想力の向上を目的とします。 対内：いわきJCメンバーが子供たちの能力開発の重要性を理解する事を目的とします。 3）事業内容： 小学校高学年を対象とした、STEAM教育コンテンツ体験の事業を行います。 4）実施期間： 5月17日(日) 5）予算： 1,200,000円（内、いわき市まち・未来創造支援事業補助金のうちまちづくり活動（ソフト）支援事業800,000円） ※補助金募集開始：1月末～2月 審査：3月 結果：4月 6）目標値： 参加人数200名 参加後にアンケートで発想力や柔軟な対応力、チームワークやコミュニケーションが養われたと80％以上と回答 JCメンバーへのアンケートで、自発的な能力開発の重要性を認識したとの回答が90％以上 7）得られる効果： 子どもたちが体験事業を通じて、柔軟な思考力や発想力を身につけることで、今後の子どもたちの将来の活躍の可能性の拡大へと繋がります。 さらに大人たちが自発的な能力開発の重要性を理解することで、子どもたちへの機会提供の増加に繋がります。 8）実施する際のパートナー：いわき市民、いわき市、いわき市教育委員会、市内小学校、PTA連絡協議会、各種メディア			
■10月例会並びに児童および保護者向け事業			（事業）公2
1）実施に至る背景： 近年、共働き家庭の増加やデジタル機器の普及に伴い、家庭内での過ごし方や親子の関わり方が変化しています。親子が一緒に過ごす時間は一定程度確保されているものの、スマートフォン等の利用拡大により、会話や共同体験の「質」に変化が生じているとの指摘もあります。こうした社会的変化の中で、子どもたちの自己肯定感や心のしなやかさをどのように育んでいくかが重要な課題となっています。地域に誇れる人財として子どもたちを育成していくためには、子どもへの直接的な支援だけでなく、日常的に関わる保護者との連携や、家庭全体で子どもの成長を支える環境づくりが欠かせません。そのため、親子の絆を深める機会を創出し、健やかな家庭環境の形成を促進するとともに、地域全体の人財育成の基盤づくりに寄与する必要があると考えます。 2）目的： 対外：いわき市民の子育て参画意欲を深め、子どもと多くの時間を共にすることの重要性を認識することを目的とします。 対内：いわきJCメンバーが教育における親子のかかわりの重要性を理解する事を目的とします。 3）事業内容： 小学生の子どもを持つ親子参加型のオータムキャンプを開催します。 候補地：いわき海浜自然の家 オートキャンプいわき水石 夏井川キャンプ場 かいぞくの森キャンプ場 4）実施期間： 10月10日(土)・11日(日) 5）予算： 1,000,000円(内、いわき市まち・未来創造支援事業補助金のうち人材育成支援事業500,000円) ※補助金募集開始：1月末～2月 審査：3月 結果：4月 6）目標値： 親子参加者40組 7）得られる効果： キャンプ中のアクティビティは子どもの主体性や柔軟な思考力を育む有効な体験活動となりえます。また、保護者にとっても子どもの成長を実感し、共に学ぶ時間を持つことで教育への理解と子育てへの参画意識が高まります。親子の絆の醸成が家庭内の関係性の深化や地域とのつながりの強化にもつながり、家庭教育力の向上と地域共育の推進に寄与するでしょう。 8）実施する際のパートナー：いわき市民、いわき市、いわき市教育委員会、PTA連絡協議会、各種メディア			

公益社団法人いわき青年会議所2026年度まちづくり委員会アクションプラン

委員会名：まちづくり委員会

担当副理事長：小野 貴弘

委員長：松本 進

副委員長：吉田 行伸 小野 光貴

ver1

（委員会設置背景）

①まちづくり運動とは、地域社会の中で人と人とながりが合い、互いに支え合いながら新たな価値を共創していくことであり、その運動を興すためには、運動を主導し、多様な人々をつなぐ発起人が不可欠です。我々いわきJCがその役割を担い、運動を力強く推進していく必要があります。

②いわき市は広大な面積と海・川・山岳地帯といった豊かな自然を持つ反面、その特性ゆえに災害が多い地域です。また近年の異常気象により大規模な自然災害の発生リスクが高まっています。有事の際に結束し行動するためにも、行政、他団体と青年会議所会員が迅速かつ効果的な対応をとれる体制を構築することが必要です。

（委員会運営方針）

①行政や他団体と連携し、市民を巻き込んだ大きなまちづくり運動を推進していきます。

②いわき市並びにいわき市社会福祉協議会と連携し、有事の支援体制を構築、運営して災害に強いまちづくりを推進していきます。

（事業内容）

■2026年度災害組織図

報告

1）実施に至る背景：いつ起きるか予想のつかない災害に対し、各地域の関係団体と協力し、迅速かつ適切な連携を行うことが有事の際、いわきJCの課題になります。そのため、有事の際迅速かつ適切な行動を行う為に災害組織図は必要です。

2）目的：有事の際に、各地域の関係団体と協力し、迅速かつ適切な行動を取れる組織となることを目的とします。

3）事業内容：2026年度に運用できる災害組織図に更新します。3月の例会時に会員に対して、災害組織図を改めて周知し災害組織図の理解の醸成を図ります。災害組織図作成にあたって必要な物資、人的支援などを事前把握し、物資購入先や建設重機リース会社などより具体的に役割を記載することで、初動対応が迅速にできるよう工夫し

4）実施期間：2025年度12月中に決定、2026年度1月から12月

5）予算：0円

6）目標値：いわきJCの会員全員が災害組織図の認知度100％災害発生時における各部署での安否確認の実施100％

7）得られる効果：2026年度組織図に対応した災害組織図にアップデートすることで、各自が自分の役割を理解し、迅速な初動対応に繋げることが出来ます。また、協定先と災害時によりスムーズな連携を図ることが出来ます。

8）実施する際のパートナー：いわき市・いわき市社会福祉協議会

■公益社団法人いわき青年会議所2026年度3月例会

（事業）他2

1）実施に至る背景：起こりうる災害に対し、JCが培ってきた防災・減災に関する組織力や協力体制を継続・強化することは、いわきJCにとって重要な課題です。災害時には地域から頼られる存在であると同時に、会員一人ひとりが自らの家族や身近な人々を守るだけの判断力・行動力を備えるため、これまでの経験を確実に継承しつつ、新たな知識を身につける機会をつくる必要があります。

2）目的

対外：災害時に展開される各地域団体とJCがよりスピーディに連携し、地域全体の防災力を底上げすることを目的とします。

対内：有事の際にJCとして冷静かつ迅速な活動を展開できる体制を構築するとともに、会員自身が家族や大切な人を守る力を高めるため、過去の経験から学び、新しい防災・減災の知識や技能を習得することを目的とします。

3）事業内容：

第一部：【連携団体や防災組織図の再確認】これまでの各関係団体との協定内容や連携、防災組織図における各自の役割を再確認します。

第二部：【豪雨災害を想定したFCP作成と発表】近年多発している豪雨災害を想定して各自がFCPを作成。グループ内で発表・意見交換を行います。

4）実施期間：2026年3月

5）予算：50,000円

6）目標値：対外アンケート「関係団体と協力し、必要な行動、支援に対して意識醸成に繋がりましたか」の問いに対し、「繋がった」以上が100％対内アンケート「防災減災に対して意識醸成に繋がりましたか」の問いに対し、「繋がった」以上が100％

7）得られる効果：非常時に会員がとるべき具体的な行動や準備を計画することで、JC活動及び災害組織図の有効性を強化できる。

8）実施する際のパートナー：いわき市危機管理部・いわき市社会福祉協議会・福島ブロック協議会

■公益社団法人いわき青年会議所2026年度8月例会市制60周年事業

（事業）公1

1）実施に至る背景：2026年は創立からともにもまちづくりを歩んできたパートナーであるいわき市が市制施行60周年となります。いわき青年会議所としても、市民の皆様と共にまちを盛り上げる必要があります。

2）目的：

対外：：まちを盛り上げるために、いわき市の魅力を発信することで賛同者を増やし、市民一体となってまちづくりを行っていくことを目的とします。

対内：まちづくりに対する意識醸成につなげることを目的とします。

3）事業内容：

いわき市が誘致するスポーツ大会の運営と運動します。いわき市民・地元企業・行政・関係諸団体の皆様と関係性を深め、今後いわき市のまちづくりを担うことができる人財を創出に寄与します。

また、同時にいわき市で盛んなスポーツの競技者やプロスポーツ団体と連携し、市民の皆様は勿論、大会を通じていわき市へ訪問された市外の皆様へいわき市×スポーツ×まちづくりをPRするスポーツ体験会・フォーラムを開催し、いわきの魅力を発信します。

4）実施期間：2026年8月

5）予算：

開催要項50,000円

広報200,000円

事業4,750,000円

5,000,000円【開催に係る広報費含む】

（内訳LOM拠出：100,000円協賛金：3,900,000円（トライアスロンジャパンからの運営資金含む）

補助金：1,000,000円補助金名：地域創生総合支援事業（サポート事業）

6）目標値：対外：アンケート「いわき市の魅力をこれまでより強く感じましたか。」の問いに対し、「感じた」80％以上対内：アンケート「これからもまちづくりに対する事業に参加したいと思いませんか。」の問いに対し、「参加したい」以上100％

7）得られる効果：いわき市の魅力を発信する市民が増え、まちづくり運動への意識醸成に繋がり、地域の活性化につながります。

また、まちづくり事業を通じて、地域のひとと関わり、組織と地域を牽引する人財が生まれ、いわきJCの今後の組織運営につながります。

8）実施する際のパートナー：いわき市、小名浜まちづくり市民会議、スポーツによる人・まちづくり推進協議会、プロスポーツ団体（いわきFCなど）予定

公益社団法人いわき青年会議所 2026年度 事務局・財政局 アクションプラン			
委員会名：事務局・財政局		ver 4	
専務理事：大和田 勝史	事務局長：俣田 辰寛		
財政局長：松崎 慎介			
(委員会設置背景)			
①我々、いわきJCが一つの公益社団法人として、また一つの青年会議所として、地域とつながり必要とされる価値ある組織としてより良い運動・活動を展開していくためには、関係法令・定款及び諸規則に則り、常に徹底されたコンプライアンス並びにガバナンスが保たれた組織運営をする必要があります。			
②近年における会員の減少、在籍期間の短期間化及びアクティブ会員の減少に加え、青年会議所における運動・活動に精通した会員の卒業に伴い、会員一人当たりの負担が増え、青年会議所における運動・活動が低迷していく懸念があります。価値のある運動を地域のために展開し続けていくためには、各会員が青年会議所における運動・活動の経験、知識を継承するにとどまらず、新たな、そして多様な経験や知識を得る必要があります。			
(委員会運営方針)			
①関係法令並びに当法人の定款・諸規則に精通し、各会議体において的確な指示・情報提供を行うとともに、監事との連携を密にし、公正で透明性の高い開かれた組織運営を行います。			
②過去の資料等を集約し、日々のJC活動における疑問点の解決にアクセスしやすい環境を整備します。また、より良い運動を展開し続けるために、業務の効率化に資する研修や新たな経験・知識を習得できる機会を提供します。			
(事業内容)			
■適切な組織運営		事業区分：なし	
1) 実施に至る背景：JCが単年度制であること、また40歳で卒業を迎えることなどを鑑み、一年一年培った知識や経験をもれなく正確に継承し、徹底したコンプライアンス、ガバナンスの保たれた組織運営を行う必要があります。			
2) 目的：			
①高度なコンプライアンス、高度なガバナンスを保ち、いわきJCが未永く地域に信頼され、必要とされる組織運営を目的とします。			
②盤石な組織として継続できるよう、各会員が次代の会員へ知識や経験を継承できる組織運営を行うことを目的とします。			
3) 事業内容：			
①各種会議体での適切な運営を行い、事務局・財政局として随時予算執行状況の確認を実施します。また、各種会議体の議事が効率的でかつ充実するよう、各会員の意見等の提出や検討時間を確保するために議案書等の上程期日を監督します。			
②法人運営、議案作成等のマニュアルの改良及び会員への情報提供を行います。			
4) 実施期間： 2026年1月～2026年12月			
5) 予算：0円			
6) 目標値：			
7) 得られる効果：			
適切な組織運営を行うことで地域から信頼され、地域の企業団体や諸関係団体との協働関係を更に緊密にすることができ、ひいては新たなパートナーシップの締結に繋がります。また、会員に対し、組織運営や議案書作成等に関する疑問点を解決しやすい環境を構築し、提供することで会員の積極的なJC活動・運動への参加が促されます。その結果が会員の成長に繋がるとともに組織の発展と持続可能な組織づくりに寄与できます。			
8) 実施する際のパートナー：			
■公益社団法人いわき青年会議所2026年度6月例会計画		事業区分：他2	
1) 実施に至る背景：いわきJCにおいては、JCに精通した多くの会員が卒業し、加えて会員減少や在籍期間の短期間化により、適切な組織運営に精通した会員が乏しい現状があります。地域から信頼され、必要とされる組織運営を持続可能とするためには、各会員が組織の在り方やその運営について経験や知識を積極的に得る必要があります。			
2) 目的：適切で持続可能な組織運営を行うために必要となる要素を理解し、法人運営の基礎を習得することを目的とします。			
3) 事業内容：適切で効率的な組織運営・事業構築を図るためには、まず法務や会計についての基本的な知識が必要です。また、そのような知識、情報を習得するためには生成AI等を活用することで効率的に短期間で知識を習得することができます。しかしながら、昨今の生成AI等の利活用にあたっては、誤情報を掴んでしまうことや、誤った使用により、個人としても、法人としても法的責任を問われるケースが想定されます。そこで、法人運営についての基本的な知識を習得する機会を設けるとともに、適切で効率的な情報収集についてのスキルを学べる機会を提供します。			
4) 実施期間： 2026年6月17日(水)			
5) 予算：50,000円			
6) 目標値： 対内アンケートで「適切な組織運営の在り方がわかった」、「情報収集のスキルが向上した」、「社業にも結び付く知識が得られた」等の回答がそれぞれ80%以上			
7) 得られる効果：組織の在り方、その運営の在り方の基礎を学び、加えて効率的で適切な情報収集の仕方を学ぶことで、適切な法人運営の基礎を理解できるようになります。これらの複合的な成果が効率的で充実した事業構築へスキルに結び付きます。そして、これらの効果は社業における知識、スキルにも結び付きます。			
8) 実施する際のパートナー： (講師派遣につき) 公益社団法人日本青年会議所、いわき青年会議所OB会、いわき市内企業・団体他			

公益社団法人いわき青年会議所 2026年度 拡大室 アクションプラン	
委員会名：拡大室	担当専務理事名：大和田 勝史 室長名：草野 大輔
副室長名：四家 麻未、渡辺 啓一郎	
(委員会の設置背景)	
①メンバーの減少が続いていることから、我々のまちにJC運動で好循環をもたらすことが困難な状況にあります。今後もJC運動を展開していくためにも、JCの理念に共感する多くの同志を集め続けていく必要があります。	
②毎年10人以上の新入会員が入会していますが、退会やスリープ会員が絶えない現状があります。その原因はJCという団体がそもそも何をやる団体なのか分からず続けてしまう点にあると考え、新入会員を中心に学びを得る場を創る必要があります。	
(委員会の目的)	
①いわきJCの理念を叶えるために、JCの考え方や理念に共感した同志を集めます。	
②多くの学びから、積極的に行動を起こすことのできる即戦力人財を育成します。	
(事業内容)	
■(事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度会員拡大計画)	(事業) なし
1) 実施に至る背景： 会員の減少が続いている現状から、組織運営が困難になっています。理念を達成するためにも、まちの青年に我々の考えを理解してもらうことが課題であり、同志を集める運動が必要です。	
2) 目的： 対外：企業や各種団体等との交流の機会を捉え、我々の考えや運動について周知することで、いわきJCに対する理解醸成と協力関係の構築を図ります。 対内：JCが提供できる機会の重要性を伝え、同志が集う組織を創ります。	
3) 事業内容： 理念を広げるために、各種団体の交流会への参加、いわきJCのセミナー開催の広報などを行い、メンバー拡大を図ります。 ・従来の手法に加え、JCに関わらずビジネスにも参考となる研修や、多方面で活躍されている先輩及び本会会員と出会う機会を創出します。そこから集まりやすい環境、我々の運動を広げやすい状況を創ることで新入会員へと繋げます。 ・現在は男性会員の割合が非常に高いことから、女性の社会活躍を後押しし、一人でも多くの即戦力人財を地域社会に輩出できるよう、多数の女性会員の入会を実現します。定期的に各委員会へ出向き、入会候補者の情報を獲得し、入会に繋げます。	
4) 実施期間： 2026年1月～9月	
5) 予算： 0円	
6) 目標値： 新規入会者：30名 入会候補者：40名以上 三役：新規入会者2人/年 その他理事：新規入会者1人/年 各委員会：入会候補者10名/年 期末会員の中で女性会員の割合20％ 新入会員例会参加率：80%以上	
7) 得られる効果：同志が集うことで、大きな運動を行うことができるようになり、理念の達成に近づきます。	
8) 実施する際のパートナー：いわきJCOB・OG 各関係団体 いわき市民 日本青年会議所：組織グループ 福島ブロック協議会：組織連携推進委員会	
■(事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度2月例会開催計画)	(事業) 他2
1) 実施に至る背景： 2026年は市制60周年となることから、いわき市では「いわき31万人のまちづくりビジョン策定プロジェクト」をこれから発足させるなど、60周年そして100年目の未来を見据えた取組みを行います。いわきJCにおいても、まちづくり委員会において 8月例会で市制60周年関連事業を予定していることから、新年度の早い時期に、市制60周年に向けた市の想いや取組みなどについて理解する必要があります。	
2) 目的： 対内：メンバーにとって、自身もJCの一員としてまちづくりに参画していく意識を高め、市制60周年の意味を理解しまちづくり事業を実施できる人財となること。	
3) 事業内容：いわき市長（または、副市長や部長）を招いて、市制60周年、そして100年目に向けた想いや市の取組みなどについて講演いただきます。 講演後、あらかじめ決められた一つのテーマ（例えば、「こうあってほしい！100年目のいわき」など）に基づき、グループワークを行い、各グループから発表してもらいます。	
4) 実施期間： 2026年2月	
5) 予算： 50,000円	
6) 目標値： 対内：事業後の対内向けアンケート結果、「今後、積極的にまちづくりに参画していきたいとの想いが高まりましたか」の問いに対し「はい」100％	
7) 得られる効果： JCの役割や運動などを理解し、積極的に行動を起こすことのできる人財を増やすことができ、組織力の向上につながります。また、まちづくり委員会が 8月例会で予定している市制60周年関連事業がより効果的な内容となることに寄与します。	
8) 実施する際のパートナー：いわき市長（または副市長、部長）、いわき市役所	

■（事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度7月例会開催計画）	（事業）他2
1）実施に至る背景： 1月入会の新入会員にとっては入会から半年以上が過ぎ、仕事・家庭とJC運動の両立に悩んだり、JC活動への携わり方に迷ったりする会員もおります。また、11月には新入会員のみで企画・運営する例会も控えていたり、次年度には各委員会で委員長・副委員長などの役割を担う会員も少なくないことから、JC活動に挑む姿勢や議案書作成の目的などを深掘りし、今後のJC活動により魅力を感じてもらう必要があります。 2）目的： 対内：会員が抱えている悩みや迷いを解消するきっかけとなり、運動の目的を再認識して積極的に活動することができる人財を育成します。	
3）事業内容：理事長やブロック会長など、様々な役職を経験し、JCプログラムヘッドトレーナーとしても活躍された著名なOB・OGを講師に招き、これまでの人生経験を踏まえ、仕事（育児）とJCを両立していくためのコツや考え方、そして、JC活動で得られたものなどの内容についてセミナーを行います。	
4）実施期間： 2026年7月	
5）予算： 50,000円	
6）目標値： 対内：事業後の対内向けアンケート結果、「これからのJC運動におけるモチベーション向上に繋がりましたか」の問いに対し「はい」100%	
7）得られる効果： メンバーが運動の重要性やJCが自らを高められる魅力のある組織であることの理解に繋がることで、JC活動への意欲と情熱が高まり、目的の実現のために積極的に行動が出来る人財、現状の問題を打破できる人財の育成に繋がります。	
8）実施する際のパートナー：公益社団法人日本青年会議所（シニアクラブを含む）	
■（事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度11月例会開催計画）	（事業）他2
1）実施に至る背景： 次年度に向け、組織力の強化には新入会員の活躍は不可欠です。しかし、新入会員や歴の浅いメンバーは既存メンバーとの人間関係が希薄であるため、積極的にJC活動に参加しづらい環境にあります。メンバー同士の関係性を深めるため、交流の場を自ら創出する必要があります。	
2）目的： 対内：仲間のことをより深掘りし知ることができ、翌年以降の活動に向けて大きな力になります。	
3）事業内容：新入会員で例会内容を含め、企画・運営してもらいます。	
4）実施期間： 2026年11月	
5）予算： 50,000円	
6）目標値： 対内：新入会員参加率：100% 既存会員参加率：80%以上	
7）得られる効果： 例会の準備段階で高まった結束力や例会で得た成功体験は、今後のJC活動へさらに主体的に参加することを可能とし、同期の絆を強くします。また、既存メンバーにとっても、新たな人間関係が生まれることで結束力が高まり、仲間意識と組織力を向上させることができます。	
8）実施する際のパートナー：無し	
■（事業名 公益社団法人いわき青年会議所2026年度会員研修計画）	（事業）他2
1）実施に至る背景：入会を避ける青年が多いだけでなく、入会をしても出席をしないまま退会につながる問題の原因は、JCについて知る機会がないことがあげられます。そのため、JCについて学びの場を創る必要があります。	
2）目的： 対内：JCについて理解を高め、積極的に行動を起こすことのできる即戦力を目指します。	
3）事業内容：JCプログラム、JCプロトコル、活躍されているメンバーと出会う座談会（本会より派遣）、事業広報のやり方など、積極的に行動を起こすことのできる人財となるための研修を行います。また、新入会員候補者に参加してもらうことで入会に近づけます。女性が集まりやすい会場、環境を作ることで多くの女性会員の入会に繋がります。	
4）実施期間： 1月～12月	
5）予算： 0円	
6）目標値： 対内：10月事業後の対内アンケート結果、「次年度以降、積極的に行動を起こしたいと思うようになりましたか」の問いに対し「はい」100%	
7）得られる効果：JCを理解し、行動を起こすことのできる人財が生まれ、次年度以降の組織力の向上につながります。また、JCに対する理解が高まり、退会、スリープ会員の減少につながります。	
8）実施する際のパートナー：公益社団法人日本青年会議所	